

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録	
開催日時	平成30年12月17日（月）14時00分～16時15分
開催場所	江田島市役所 本庁 4階会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>小跡 孝廣 江田島市自治会連合会 上村 千景 江田島市PTA連合会 三上 千尋 江田島市三高保育園保護者会 清水 昭彦 田舎暮らしを楽しもう会 村上 浩司 江田島市農業委員会 久保河内 鎮孝 江田島市漁業振興協議会 平田 圭司 江田島市商工会 伊藤 富美雄 江田島市観光協会 市村 匠 公立大学法人県立広島大学（座長） 植野 建二 江田島市金融懇談会（広島銀行） 岩田 敏彦 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所 伊東 典代 広島県健康福祉局子育て・少子化対策課 上迫 滋 広島県CCMO（県政コミュニケーション・マーケティング総括監）</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】</p> <p>江郷 壱行 企画部 部長 畑河内 真 企画部企画振興課 課長 山崎 充宏 企画部企画振興課企画係 専門員</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン】</p> <p>木原 隆 門野 淳記</p>
欠席者	—
傍聴者	1名
会議次第及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会 2 座長あいさつ 3 説明・報告事項 江田島市の現状，総合計画・総合戦略に係る取組と成果等について【資料1～資料3】 4 協議事項 江田島市の取組施策について【資料4及び資料5】 5 閉会</p> <p>【資料】</p> <p>資料1：江田島市の現状と方向性（市総合計画・総合戦略） 資料2：社人研の人口推計について 資料3：江田島市の人口移動の現況 資料4：江田島市の取組施策 資料5：総合戦略の具体的施策と現時点における成果と見直し方針案 参考1：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱 参考2：分野ごとの取組施策及び市民満足度の向上のための所管課の取組方針案</p>

会 議 記 録	
事務局	<p>1 開会</p> <p>本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>会議の開催に先立ちまして、事務局からお知らせします。本日の会議資料につきまして、御確認をお願いいたします。資料は、次第、委員名簿、資料1から資料5まで、最後に参考資料でございます。資料に不足がございましたら、事務局にお申し付けください。また、本日は、議事録作成のため、会議を録音させていただきます。御了承ください。</p> <p>それでは、ただ今から、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議の第6回会議を開催いたします。</p> <p>会議は、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>初めに、座長から御挨拶をお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>皆様、こんにちは。お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今日の会議は、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議、今年度初めての会議なのに、もう6回開催したことになるわけではありません。過去に遡ると、平成27年7月7日付で、この有識者会議の設置要綱というものが定められております。その中で、この会議がどのような役割をするかということ、今一度思い出していただきたいと思っております。何をやるかということ、江田島市人口ビジョン及び江田島市総合戦略の策定に関する事、これは、平成27年10月に開催しました。それから毎年1年に1回ずつ、見直しというか、検証ということを行って、それが第2条第2号に書かれているところでございます。</p> <p>さて、いろいろ3年も経ちますと、数値的な移り変わりというもの、だんだん見えてきていると思っております。人口減少が止まっていないじゃないかということも言われるかもしれませんが、最初から減少することは想定した上で、減少の傾きというか、その状況をどうやって食い止めていくかということ、皆さんで戦略を立てて、計画を立てて、それを毎年毎年実行してきたという状況になります。</p> <p>事前に資料を拝見させていただきましたが、いろいろところで顕著なところ、特徴というか、そういうものが出てきております。それについて、それぞれの皆様のお立場から御意見を賜ればと思っております。本日は長くなるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>さて、本日は、当会議が今年度初めての開催であり、委員の皆様におかれましても、各所属での異動により、初めて御出席いただく方もいらっしゃると思いますので、改めまして、皆様に一言ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。</p>
各委員	<p>※ 小跡委員から自己紹介（P1の「出席者－有識者会議委員」を参照）</p>
事務局	<p>3 説明・報告事項</p> <p>それでは、当会議の進行につきましては、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5条第2項の規定によりまして、座長が議長となりますので、ここから先の進行をよろしく申し上げます。</p>
座長	<p>ここからの議事・進行は、私が務めます。</p> <p>それでは、次第3の説明・報告事項として、「江田島市の現状、総合計画・総合戦略に係る取組と成果等について」、事務局から説明・報告をお願いします。</p>
事務局	<p>江田島市の現状、総合計画・総合戦略に係る取組と成果等について 【資料1～資料3】 ※ 内容は、資料1～資料3のとおり</p>
座長	<p>資料1から3まで、事務局から御説明いただきました。この件につきまして、何か御質問がございましたら、お願いいたします。</p> <p>すみません、事前に言っておけばよかったのかもしれませんが、先ほどのA4の町ごとの人口増減の図がありましたが、これは増減が単純に数値で比較されていると思いま</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	すが、その分母は今まで何人住んでいて、そのうちの何人という考え方はしなくてもいいのですか。
事務局	地区ごとの人口ですか。地区ごとの人口は、3枚目を今、御覧でしょうか。黄色の美能でいえば、平成30年4月時点で300人いるということになりますので、その前の1年の増減がそれぞれあるということです。
座長	パーセンテージも書いてありますが、今おっしゃられたのは、何人何人と言われていて、そこで何人が、例えば、農業研修で入られたとか、そういうことをおっしゃられていたと思いますが、書いているパーセンテージの議論というのは、なかったのではないかなと思うのですが。
事務局	パーセンテージとは、高齢化率のことですか。
座長	これは、高齢化率ですか。
事務局	はい。
座長	では、全体の人数分の何人という考え方はされていない。
事務局	それは、こちらには載せていません。
座長	どちらがいいのか分かりませんが、カウントして何人という考え方がいいのか、それとも町のうちの何人、何パーセント増減があったか、高齢化率も考えてという数値指標があった方がいいかなとは思いました。
事務局	はい。次回カウントさせていただきます。
座長	すみません。単純に、たぶん顔を見て、あの人がいなくなった、あの人が入ってきたというのは分かると思いますが、統計的なことを考えたときには、やはり全体のうちの何割とか、いろいろまとめられていた若い層とか、仕事、それから便利なところとか、そういったところを掛けてあげて数値で表せると、もっとわかりやすいかなと思います。指標を独自につくられてもいいかなとは思いました。他に何かありますか。
委員	これは、何が理由で入ってきたとかは分かるのでしょうか。
座長	転入の理由ですね。
事務局	それぞれ地区ごとでの理由については、ちょっと分かりにくいです。はっきりと特定できるものは、ないです。地区別になると、やはり厳しいです。江田島市全体では、資料3の理由別になります。理由別で、それぞれの数値を差引きで出していますが、転入理由というのも当然切り分けてみるができます。それで、だいたいの傾向は見られると思います。今、手元になく、申し訳ありません。全体であれば見られますが、地区別になると見られないというのが、正直なところでは。
座長	他にありますか。 次に、次第4の協議事項として、「江田島市の取組施策について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	4 協議事項 江田島市の取組施策について 【資料4及び資料5】 ※ 内容は、資料4及び資料5のとおり
座長	説明、ありがとうございました。ここからは、先ほど言われた論点、資料4の最後について、皆様から御意見を頂戴できればと考えています。 まず上の方、人口減少傾向の改善を図るには、どのような点に留意すべきかという点につきまして、皆様の専門的な観点、それから市民の観点、視点から御意見等ございましたら、お願いしたいと思います。どなたかございませんでしょうか。
委員	説明していただいた中で、感じた点をいくつか共有させていただければと思います。 流出に関して言うと、やはり広島市や呉市に出やすい地域から多く流れ出ているというのが見てとれます。これは、考えようによっては、通いやすいのだから江田島市に

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>住んでもらえるとよいと思いますが、逆になっています。何かあればすぐに戻って来られるから、逆に本拠地を市外に出してもいいのではないかと。多分、仕事が都市部にあったりすると、そうなりがちなのかなと思います。</p> <p>どのような点に留意すべきかということですが、島の中でやれる仕事とか、そういうものをどう増やしていくかになると思います。そのときの視点の一つとして、今は交流人口で、縁をつくっていくという大きい方向性を示していますが、最近よく言われているのは、交流人口からもう一步踏み込んだ関係人口です。要するに、交流とは単純な人の行き来で、物見遊山で来るのも交流人口ですが、「一緒にこの課題を解決しましょう。」といった、取り組むテーマを持って行き来してくれている人たちを、交流人口よりも少し中身の濃い人たちということで、関係人口と言います。最近、少しずつ起業や提案型の補助金を活用した「こういうことをやりたい。」という取組の申請も増えてきているんですけども、こういった事例をもっと増やして、島の外とも上手くつながりながら取り組んでいるようなプロジェクトが、最終的に軌道に乗って会社になっていけば、呉市や広島市に出るのではなく、江田島市を本拠地としていこうと思っていただける方が、結果として増えていくのではないかと感じています。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございました。他に御意見はございませんか。</p>
委員	<p>論点のところですが。減少傾向で、どのようなことに留意すべきかということと、二つ目のことで、改善を図るにはどのような施策かということで、本当に日本の国が全力を挙げて取り組んでいくところも論点になっていると思いますが、正直なかなか難しい論点でございまして、これがよいというのは、本当に総務省や内閣府も相当一生懸命にされていますが、江田島市に落とし込んでいったときに、この物事の考え方をどう考えていけばいいのかなと思います。様々な分野において、各施策、取組をされていますが、それを見たときに、やはり「まち・ひと・しごと」なので、各分野でのKPIを回しているの、数値化というのが必要なのではないかと漠然と思いました。</p> <p>どのように数値化をしていくかということですが、人口減少を食い止めるには、人口の1%を増やせば、減少が緩やかになっていくと一般的に言われています。2%人口を増やすと、増加に転じていく可能性があるということもよく言われているところです。江田島市に置き換えると、1%というのは235人です。仮定の話になりますが、235人増やすと、人口減少が緩やかになっていきます。2%は、470人です。毎年470人を増やすために、どういう取組をするかということで、先ほど数値化という話をさせていただきましたが、江田島市の取組の施策が分野ごとに別れています。</p> <p>少し乱暴な言い方かもしれませんが、例えば、教育・文化の施策によって、大体何人の人口増加を目標にするのかといったことが、漠然としていて見えないかと。産業・観光において、農林業、水産業、商工業、観光業といろいろあると思いますが、本当に様々な取組をされています。この分野においても、商工業で20人ぐらい、先ほど新規創業の話もありました。移住後に江田島市で開業していただくということも、年々成果が出ているところですので、数値化としての人口増加という数字に当て込んでいくと、1年目でいきなり470人はなかなか難しいと思いますが、極端に言えば、5年ぐらいのスパンで数字を入れていき、少しずつ増やしていくという具体的な施策の方が市民の皆さんも分かりやすいと思います。KPIを回していくときにも、分野ごとの単位で区切った方が、この辺りが弱いとか、この辺りは実績が出たといったところを、皆さんにも見ていただきやすく、成果指標としても取り組みやすいかと思います。以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。他にございませんか。</p> <p>実は、私のところにシナリオがございまして、一人一人から意見を聞くということが書かれておりまして、その順番が回ってきますので、まず一つ目のどのような点に留意すべきかというところを、お聞かせください。</p> <p>私から聞きたいのですが、先ほど人口減少の原因ということで、若い層がいない、仕事の関係で外に出ていく、転出先は割と近くに引っ越しているという話がありました。市内の中でも移動があつて、便利なところ、あるいは見晴らしがいいところというようなまとめがありました。これは、私が思うに若い層の確保は無理矢理監禁するわけにはいかないの、どうすればいいかということが難しいと思います。なぜ若い</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>層が外へ出ていってしまうのかということ考えたときには、高校や大学、就職などと言われますが、実は全部が関東圏に行くということでもなく、近いところにいたりします。なぜ戻ってこないか等、そのようなことも考えていただければと思います。</p> <p>例えば、廿日市市でこういった総合戦略に私が関わったときに、様々な意見がワークショップで出されました。その中にももちろん仕事、子育ての環境、それから高校や大学の話もあれば、廿日市市は昼間の人口が少なく、ベッドタウンになっているといったことについても話があった一方で、吉和のような過疎になっているところもあるといった様々な意見が出ました。そういった中で、何をどのように縁としていくとよいかということについて、住民の皆さんから意見がいろいろ出されています。</p> <p>私が大学として最近いろいろやっているところが、大崎上島町です。御存知のように高校ができたり、御存知かもしれませんが、ミカン農家の人手不足の問題とか、レモンを植える等、そういったことも大学としていろいろ関わっています。大崎上島町は、うちの大学だけではなく、他の大学とも区分けをしております、広島大学や海外の大学、そういったところと連携して、いつの間にか国際的になってきています。面白いこととして、そこの人たちと話をしてみると、小さな小学校、中学校の子どもに対して、大人がしっかりと挨拶をさせていて、子どもたちは、私が行っても挨拶します。見ず知らずのおじさんが近付いてきて、普通なら怖いと思うかもしれないところを、しっかり挨拶をして、自分たちの考え方とかもしっかりと言います。町自体も人口は少なく、先ほどの健康の問題とか、いろいろKPIが達成できないといったところがあると思いますが、そういったところには、うちの大学の教員が出ていき、タウンミーティングとまではいきませんが、健康増進といったことをいろいろとしています。いろいろなことを考えて、その発案をしているのは、どちらかという町役場、市役所ではなく、住民の皆さんだと思います。自分たちがどのように住みやすい場所にしていくか、してもらおうということもありますが、どのようにしていくかということが必要です。逆に、これ以上自分たち、あるいは周りの人が出て行かないためには、どのようにすればいいかということを考えていただきたいと思います。</p> <p>何か御意見があれば、お願いします。まず、1個目に改善を図るにはということについて。はい、お願いします。</p>
委員	<p>一つ目の現況の改善を図るにはという命題ですが、今、説明があったように、市は、様々な施策をされています。通学定期の負担、こども園の整備等いろいろなことをされていますが、人口をアップするのは難しいことだということで、できるだけ減少率を下げるという形で取り組んでいると聞いています。平成29年度が最新ということで、来年どういう結果になるか楽しみです。そういった意味で、江田島市も十分ではないかもしれませんが、それなりにしっかりした対応を取っているのでも、私ども観光協会としても様々な施策もしていますが、これらからどういった結果が表れるか楽しみです。来年また、そういった最新の数値が出てくるのではないかと思います。これからいろいろな形の中で、協議していきたいと思います。暗い話ばかりではなく、そういったことも、市民の一人として期待をしております。</p>
座長	<p>ありがとうございます。他に御意見はございませんか。</p>
委員	<p>この会議に初めて出させていただいて、説明を聞かせていただきましたが、この問題については、今回、会議に出て初めて気が付いたというものではありません。江田島市にいる全ての人間が、こういった人口問題に関心を持っておられると思います。住居の自由というものが、江田島市の職員が、島に家がありながら、呉や広島へ住所を移して、江田島市へ勤務しているという状況が耳に入っています。およそ何人ぐらいの江田島市の職員が、呉や広島からこちらの江田島市へ通っておられるのでしょうか。</p>
事務局	<p>50人はいると思います。</p>
委員	<p>そのぐらいだと思います。一部の人だと思いますが、南区の宇品へ住所を変えて、フェリーの近い、歩いていけるようなところから江田島市へ通勤されているという話も聞きます。こういった方の全てを江田島市に住所を変えるというのは、非常に難しい問題だと思いますが、やはり市職員も江田島市の人口減少に対して、捉え方をもう少し考えていく必要があると思います。</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>それと夢物語の話ですが、江田島市にいらっしゃる方々は、耳にしたことがあると思いますが、坂町や広島市に橋を架けるという話が以前ありました。その話が頓挫してから今は全く話に挙がっていませんが、委員さんが言われたように、やはり江田島市は広島、呉に非常に近く、島でありながら便利のいいところです。しかし、呉市や広島市に船で行くと、最終便がなくなったら島に帰って来られないことがあります。そういった面があり、広島市や呉市へと行かれる方がいらっしゃるのだと思います。こういった夢を持てるような施策と申しますか、橋をつくりたいという市の基本的な考え方があれば、今の子どもたちも将来的に橋ができれば広島市や呉市と陸続きになり、最終的には住宅を江田島市へ建てられるというような、夢が広がってくるのではないかと非常に思います。これは、本当に夢物語ではありますが。</p> <p>もう一点は、江田島町の北部に海田湾を埋め立てるために山を切り崩した跡地があります。ここは、平地になっています。この地域においては、合併する前に江田島町において、住宅団地を建てて、広島市や呉市からそこに人を呼び込むという施策があったと伺っています。それも今頓挫して、全く話には挙がっていません。こういった夢物語ではありますが、今の江田島市に住んでいる若い子どもたちに、希望が持てるような話を市役所の施策の中に入れていただければと、私は思いました。</p> <p>それともう一点ですが、大柿高校の存続の問題があります。来年の4月1日に80人を割った場合には、再来年の4月1日は、大柿高校としての存続は非常に難しいと、県の教育委員会からも答申が出ています。大柿高校をなくさないようにするための会議等がありますが、もっと江田島市の人間が関心を持って、大柿高校を存続していくという意識を持つことが必要だと思います。もし、再来年に80人を切れば、約60人の高校生が全て呉や広島へ通うようになるわけです。そうなった場合の江田島市としてのあり方というのは、非常に暗くなってしまうと思います。そここのところが、非常に大切な施策の一つになると思います。以上です。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。それでは二つ目の、今までのお話でも二つ目の内容に入っているような気はしますが、人口減少傾向の改善を図るには、どのような施策が効果的かという問題について、この機会ですので、委員の皆様のご専門分野に関する意見として伺いたいと考えています。</p> <p>まずは、仕事の分野についてです。江田島市金融懇談会の委員さんから御意見をいただきたいと思いますが、市内の事業所の動向等、仕事に関する状況について何か所感等をお持ちであれば、御紹介いただけないでしょうか。金融機関として、それに対しどのように取り組まれているか。また、どのような取組があればよいかについて、御意見を伺いできればと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今の質問に全部答えられるかは難しいかもしれませんが、銀行員としまして、まず人口が増えるということにつきましては、職場があると思いますが、まず一番効果的なのは、大きな会社が誘致されて、そこに働くということです。呉の苗代等の工業団地に、特にマツダの関連企業が非常に好調で、工場を建てており、大渋滞が起こるぐらいに車が走っていて、そこに人が住んでいくということが起こっています。したがって、長い目になるかもしれませんが、江田島の島内に大きな会社が来る、工場を誘致するというのも一つ大きなことではないかと思えます。</p> <p>これは経済の話でしたが、人口の話になりますと、もう一つは、やはり子育てだと思います。先ほど幸ノ浦で2世帯4人ずつが入って人口が増えたということがありましたが、基本的にどういう人がこの島へ住むために来るのでしょうか。働く職場があるから来る、仕事をリタイアした人がここでゆっくりのんびりとした生活をするためにここに住むかという、それも少しどうかと思います。やはり子育てに適した場所であることが魅力の一つで、子育て環境を育てるということと企業立地ということは、人口が増える大きな原動力になろうかと思えます。</p> <p>あとは、メディアをどこまで使えるかということだと思います。私もまだここに2か月と少ししかいませんが、江田島市は多くのことに取り組まれていると思います。これをいかに島外の方に知っていただくか、このことが一番大事ではないかと思えます。この場にいらっしゃるのは基本的に島内の方々だろうと思いますが、そうではなく、様々なメディアを使って、島外に今の取組をどれだけ発信できるか、これが大事なのではないかなと思っています。以上です。</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、呉公共職業安定所の委員さんに対する質問がございます。市内の事業所の動向等、仕事に関する状況について所感等があれば、御紹介ください。また、公共職業安定所として、どのような取組を行っているか、御意見をお伺いできればと思います。よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>今日、会議に初めて出席するに当たり、事前に資料をもらっていて、ハローワークとして何ができるのかなと考えながら来ていましたが、現在の江田島市の求人の状況というところ、別の会議の場で、江田島市に仕事があるということを知りますが、その仕事は世間、全国から見えづらい状況なのだと思います。ハローワークに出ている求人で江田島市を就業場所とした求人を、今日来る前に参考までに調べてきていましたが、割合的に少ないです。あるのだろうとは思いますが、それが人を募集しますという形でハローワークに出てきていないので、江田島市以外の地域外の人が江田島市に何か仕事はないかと見るときに、ハローワークに来たり、あるいは最近ではネットでハローワークの求人を探りますが、仕事がありませんという状況が現状です。</p> <p>そこで、最近、江田島市の方とも協力しながら、まずはハローワークに来てもらうために、仕事をお探しの人は是非ハローワークを御利用くださいというアナウンスを市の広報を通じてしたり、あるいはハローワークで求人開拓ということで、江田島市に仕事がある潜在的であればそれを求人票という形で出してもらおうということで、江田島市内を求人開拓のために歩くといったことをしています。ハローワークとしては、地縁血縁で近所のあそこの会社が人を募集しているということが、身内の中で完結しているため、世間には見えない状況になっていて、江田島市に仕事があるということが世間から見えづらくなっているんじゃないかなと思うので、人の募集というのを広く出していくという方向がよいのではないかなと思います。視点が江田島市の施策がどうかというよりも、ハローワークとしてこういったことをしたら人が増えるのではないかなという感じで考えてしまっていたので、ちょっとずれているかもわかりませんが、以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、産業団体の委員の皆様、団体としては、どのようなところを目指して、どのような取組を行われているのか。また、人口減少の改善のために、それぞれが所属されている分野において、どのような事業があればよいと思われるか、お伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>正直、農業は、この何十年ですごく衰退しています。私は、帰ってきて25年か26年になりますが、自分の場合は、とりあえず島も好きで農業をしようと。結婚してからは、正直、宇品に3年から4年ぐらい出ていました。子どもができて帰ってきました。広島市で生活をしたんですけど、広島市は、壁1枚で隣の人が分からないという感じでした。ちょっと話の路線が違いますが、私たちの世代というのは、ほとんどみんな出ていっています。私は、田舎が好きということもあるし、仕事もあったから帰ってきました。あとは、学校や奥さんの問題だと思います。奥さんの意見もあると思うので、田舎に帰るか帰らないかでみんなで決めるとは思いますが、そういう現実もあると思います。</p> <p>農業に関しては、私は花をしていますが、やはり景気がよければ後継者もできるし、もっと仲間も新規で入ってくるのではないかなと思います。やはり今、花も売れないから、なかなか増えていないというのが現状です。市役所とすれば、新規就農等、そういった活動は、既に頑張ってもらっていると思います。あとは、やる気ですよね。やる気があるような人が入ってくればよいと思っています。以上です。</p>
委員	<p>私は、美能漁協、元々ががんねがあった地域です。我々は、私も漁業組合に入って35年です。漁業の変遷をいろいろと見てきました。現状、漁業者が増える要素は、正直に申し上げるとありません。今、広島県のカキと漁業者をどうやって守っていくかということが、今、我々に課せられた最大の取組です。私も、マスコミとかテレビで見たように、代表で汚染土を持ち込むなどということをしている状況です。</p> <p>先ほどの夢を語るということで一つ、がんねは、日本のエーゲ海ということで、これからその活性化をしてみたいです。これは、まだ話の入口でありますので、これからどういような形になるかというのは、江田島市も我々漁業者も地域の住民も一体となって考えて、昭和50年のがんねにまでの再興はできないにしても、海を観光と漁業者と</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>一体として取り組める方策がないかということ真剣に考えている状況です。</p> <p>それで、大手のホテル等の話が出ている中で、クラウドファンディングで宮島の海上ルートを開拓していきたいというような、半ば大風呂敷のような話もあり、迷惑が掛からないような状況であれば、とにかく取り組んでもらいたいと思っています。取り組んでみて、いい芽が出るか悪い芽が出るかというのは分かりませんが、江田島市のイメージアップにつながるようにマスコミに取り上げてもらえれば、いいような状況になる可能性もあります。また、そういうときには、今日も観光協会会長、商工会長、他の方に御相談申し上げて、どういうふうな取組で江田島市をPRしていくかということ、それと、もしそういうような観光地が復活できれば、そこへ移住したい、美能の住民になりたいという希望者もいます。だから、どういう形になるか、途中で頓挫するかもしれませんが、ひょっとしたら小化けするぐらいの状況にはならないかという心も気持ちもあります。そのためには、どうしても海が必要なんです。特に西の方は、私は15年前に宮島に一番近い江田島市ということでがんねをPRしたことがあり、費用がかかり過ぎるということで頓挫しましたが、観光に海を活用できないかということを一生涯懸命取り組んでおるような現状です。そこらを皆さん方に御支援いただいて、御相談申し上げて、取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>先ほど冒頭で数値化の話がありましたが、各分野ごとにどのような取組かという御質問でしたので、事業承継の取組を本年度からさらに深みを入れて実施をさせていただいております。政府も、事業承継が地域経済衰退の最終的な歯止めになるというところで、国も予算をどんどん入れていますが、そうしないと本当に地方経済は疲弊して、そこに誰もいなくなってしまうという状況になってしまいます。</p> <p>これに関してどういう取組になるかということ、市内事業者は1,400事業者ありますが、一番の取組というのは、後を継いでいただくことです。その会社を継続していただくためにどのような支援ができるか。政府の税制改革も含めて、包括的に取組を今始めているところです。市内金融機関さんも、当然、事業承継に関して、非常に重きを置かれています。あそこのお店があったのに、経済的に将来性がないから店の息子が帰らないということになってしまうと、事業が続かない。誰か他の人に任せるというのも、なかなかうまくマッチングできません。しかも、息子夫婦が帰って来ないので、人口も増えず、江田島市内で水産業の厳しい現実もおっしゃっていましたが、農林水産業を含めて跡を継いでいけるような、また、再投資可能な地域を江田島市が目指していかないと、息子は帰りたいけど、そのままサラリーマンをやっていたほうがよいということをお父さんが言ってしまうと、本当に誰も帰らなくなってしまいます。年に何度かセミナーを開かせていただいておりますが、親子関係は非常に難しいです。お父さんが厳しいので家に帰りたくないとなると、個々の家庭の事情まで踏み込んでいって、アドバイスをさせていただくところまでいかないと難しい。せっかく何十年も続けてこられた立派な会社が続いていかないということは、本当に地域にとっても大変な損害となりますので、本当に各分野を含めて取り組まさせていただければと思っています。以上です。</p>
委員	<p>結論から言えば、もうかる観光を目指したいと思っております。あるアンケートで、江田島市を知っていますかというアンケートをとりました。県内でも半分以上の方が江田島市のことを知らないという結果が出て、あざんとしました。やはり江田島市を知っていただく施策、ここに書いてありますように今年度からやっていますが、観光戦略チームの「一步」というのをつくりまして、積極的に情報発信をする取組を始めました。やはり会員の皆さんは市民ですから、会員の皆さんが元気にならないと、市民も元気にならない。また、商工会の会長も言われましたが、もうからないと跡取りも帰って来ないということになるので、そういうところもしっかりと頑張ってやっていきたいと思っております。</p> <p>その中では、やはり交流人口を活発にするということで、ホテルの建設です。これは、観光協会が主にやっているわけではなく、市の重要な施策でありますから、観光協会としても期待をしております。道の駅の設置が整備できれば、そういうハードなところをしっかりと整備して、会員の皆さんに御活用いただいて、活気のある地に、観光にしたいという思いがありますので、今、言い尽くせませんが、いろいろなことがやりたいという思いがあります。できることは全部やってみたいということがありますので、皆さんの御協力を、今後ともお願いしたいと思います。以上です。</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次に、「子ども・教育」についてです。県における少子化や子育てに関する動向や取組の状況についてお聞かせください。また、江田島市では、どのような事業を展開すれば、効果があると思われますか。よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>人口減少の中で、一部を占めるのが、少子化対策だということだろうと思います。少子化の要因がいろいろあることは、皆様も御承知のとおりですけれども、ピーク時から半分になっています。今回、拝見しまして、江田島市の半分どころでない減り方を見て、すごく驚きました。ピーク時9,300人から今は2,400人ということで、本当に危機的な状況にあるということを感じたところです。</p> <p>少子化対策の一つとして、皆さん御承知のように、未婚の人が増えているというのが原因だと思っております。県では、子育てのプラン、そして、県の総合プランの中でも出会いのところから応援するということで、今、一生懸命取り組んでいます。こちらは、3年ほど取り組んで、県内で今、250組の方が御成婚されて、御報告をいただいたところです。その中の1組に江田島市の方もおられて、確か関東圏からお嫁さんに来られた方もいらっしゃるかと思いますけど、その方も、江田島市の方の人柄とか地域をととても気に入られたと伺っています。</p> <p>結婚支援をなぜ行政がするのかということから私たちは始めていますが、やはり担い手の不足という話もあり、事業承継のために後継者をという話がありました。そういったところをいろいろ考えたときに、出会いのところからというのは、今、県の出会いサポートセンターに登録してくださっている方というのは、正に30人から40人ずつぐらい江田島市にもいらっしゃいます。男性女性の両方ともです。なので、そういった希望を叶えることも、第一歩かなと思っています。</p> <p>江田島市は、子育て支援を一生懸命されていて、他にはない取組もたくさんあります。今回、来させてもらうに当たって調べましたが、保育園の第3子の無料というのは、同時入所しているところが無料になるのは他でもありますが、同時入所ではなく、お兄ちゃんお姉ちゃんが小学校に行っている、こちらでは無料にするという力の入れ方は、素晴らしいと思っています。また、子育て支援センターもつくられることもあり、やはり子育て支援に力を入れられているというのは分かります。</p> <p>もう一つの魅力としては、地域の皆さんが温かく子育て家庭を迎えられること。例えば、先ほどおっしゃっていた、隣に住んでいる人は誰か分からないという人間関係ではなくて、地域で温かく若い世代、子どもたちを伸び伸びと育てられるつながりというのは、地域の魅力だと思っています。県の取組とは、ちょっと違うかもしれません。</p> <p>直接的なアドバイスにはなっていないかとは思いますが、やはり地域の魅力をしっかり外に向けてアピールしながら、希望を叶えていくことが大切かと思っています。そして、人口をこちらの計画で拝見したときに、若い世代では、男女比が2対1ぐらいで男性が多いです。今、拝見しますと、例えば、25歳から44歳で調べてきましたが、男性が2,800人いて、女性が1,900人ということは、1,000人は結婚できないということかと少し思いました。もちろん自衛隊関係の特殊性や産業の特殊性もあるかもしれませんが、細かいところに目をかけながら考えていければいいと思っております。何かできることがあれば、私たちもお手伝いさせていただきますので、よろしくお願いたします。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、子育て世代の意見として、どのような事業があればよいか、教えてください。</p>
委員	<p>なんで人口が増えないかというのは、分かっていることだと、私は思います。先ほど夢物語というように言われましたが、例えば、江田島市は逆行していて、学校がないと若い人が入って来ないということが分かっているのに、それぞれの地域に学校はなくなり、統合されて一つになっています。例えば、うちだと、子どもが3人、もう2人は広島市内に行って、連れ合いも広島市内の会社に行っていますが、そうすると、こちらにいるよりも経済的なこと等は島からは出た方がいいと分かっています。私らもなんで残っているのかというと、やはり地域とのつながりといったところで残っています。</p> <p>先ほど言ったように、大柿高校を存続するためには、各地域に学校があれば、そこからまた子どもが上がってきて、大柿高校に行くとか、そういう具体的なことをしていただきたいと思っています。今の施策を責めているわけではないですが、今、出されているこ</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>とに逆行していると思います。</p> <p>それから特色といいますか、若い子に聞くと、学校がないから、子どもが生めないからここにはいられないといった意見も聞きますが。例えば、障害を持った子どもさんを持っていらっしゃるお母さんは、今、すごく多いと思います。そういうところでも、障害者にとって住みやすい地域、子育てできるような地域というのをつくっていくべきだと思います。漠然と数値を出されても、私たちはよく分からないので、他県ではどうやって何が足りなくて何が足りて今人口が増えているかということ、先ほども少し話されていましたが、具体的に出していただけたらいいと思います。その部分がすごく大事で、数値は出ているけど、なぜそうなるのかが分からないというところが問題なのではないかと思います。是非、子ども療育センター等をつくられて、本当に私たちの子どもが住みやすいまちをつくってもらえたらいいと思います。</p> <p>先ほど言われた夢物語の中で、橋をつくるというのには賛成で、橋が一つできると、本当に人口は増えると思います。</p>
委員	<p>子育て世代からして、江田島市に住む地域にもよりますが、住みやすいか住みにくいかなと言ったら、住みにくいです。なぜかという、買い物へ行くにも車がいる、習い事もない、とにかく一つ一つが大変です。そういう部分で住みにくいかと。実際、私の子も障害があるので、毎週、呉市の広まで通いますが、やはり大変で、お金もかかります。そういうときに、江田島市のよいところはたくさんあるのに、それをうまく活用できていないと思います。</p> <p>話は変わりますが、大柿高校にしても、もっと魅力的な部分、例えば、金足農業みたいに野球を強くする。仕事の面にしても、海がせっかくあって、若い漁師さんもたくさんいる中、そういう人たちをピックアップして、若い人たちはSNSを見るので、そういったものを活用して、職業のブランド化というのも大事だと思います。確かにハローワークを見ても、安い給料の仕事しか載っていないので、外の人は見ても来ないのかと思います。もっと子どもたちが生き生きできるような江田島市にしてほしいと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、市内の移住者の傾向や特徴等について、お気付きがあれば、御紹介ください。また、どのような取組があればよいと思われるか、御意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>私も移住者ですが、もう17年になりました。当時の江田島市という地域は、やはり閉鎖的な部分もありましたが、最近、それが嘘のように非常に親しくしてもらえ、受け入れてもらえるということで、大変喜んでます。こちらに来まして13、14年、定住促進の活動をしてきました。当時は、第2の人生を田舎で暮らしたいということで、60歳以降の方々が主体でしたが、最近、嬉しいことに30歳そこそこの御夫婦の方、子連れの方が都会から移住してくる例が、段々と増えてきました。これは、やはり人口の一極集中、都市型から田舎型へと変わってきているということです。自然の中で子育てをしたい、空気のいいところで暮らしたい、子どもたちを素足で遊ばせるようなところに住みたい、海のそばで住みたいという方々が非常に増えていて、2、3年前から急激に増えてきました。</p> <p>それと並行して、江田島市の交流観光課の中に、定住促進の関係の部署がありますが、以前の市長のときも定住促進に力を入れるというお話でしたが、今は担当者が1人です。1人ではなかなかPRもできないし、いわゆる空き家バンクに人が見にきたら連れていく。そしたら、相談業務が全くできないという状況です。だから、市の職員を減らすという状況も分かっています。何を重点的な策にしていくのかという行政のあり方をもっと明確に、力を入れるべきところには力を入れるというメリハリを付けた、そういう施策をやっていたかかないと、進展がないかと思います。</p> <p>そして、話は変わりますが、やはり定住促進で人口を増やしつつ、減少をゆっくりにしていながら、新しい施策をしていくという観点について、修学旅行の民泊をしています。今年度、若干、周防大島の事故や市の水害があつて増減がありましたが、概ね4、500人の修学旅行生が江田島市に来られました。これは、官と民とでする最初の事業ですが、これは、今は、広島県の中ではトップクラスをいっていると思っています。埼玉、千葉、茨城、いろいろなところから修学旅行生さんが来られますが、海の素</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>晴らしさ、景観の素晴らしさというのは、私たちが思う以上にすごく感嘆されています。それほど江田島市というところは、瀬戸内海という中で一番よい位置にあるということです。平和学習をして、すぐに来ることができる。そして、海はきれい、魚は美味しいということで、非常に喜ばれています。だから、子どもたちに何が一番したいのかというと、先ほど委員さんがおっしゃりましたが、やはり海なのだと思います。海の観光や体験がやはり一番人気です。だから、うちは船釣り体験だというと、大変喜ばれます。そのぐらい江田島市というのは、潜在的に観光ができるところ、来て喜ばれるところ、そのように思います。それで先ほど委員さんがおっしゃられましたが、漁業者がいろいろな面で大変な御苦勞をなさっておられるという現状において、農山漁村余暇法というのがありまして、その中で割と簡易に体験民泊ができるという方法もありますので、それも併せてしていくことによって、観光で先行投資をやらずに、なんとかやっていけるのではないかと思います。</p> <p>そして、インバウンドという言葉がありますが、外国人の方で江田島市に来たいというお客さまがだんだん増えてきました。私たちは、修学旅行と大人の体験民泊というのを両方併せてしており、これは、許可制で申請がありますが、それほど難しいものではありません。私は、修学旅行をやりながら、それをしていくということも一つの手かなと思います。そして、今年はスイスからも5人ほど来られましたが、東京の業者、スイス専門の業者、旅行業者が探してうちに電話があったので、今年受けましたが、やはり瀬戸内海というものの再認識、素晴らしいという印象でした。スイスは、当然、山の中です。瀬戸内海は、ヨーロッパの地中海やエーゲ海に負けない、なぜこれを開発しないのかというお客さんの声が多いたというのが現実です。そして、今年来たお客さんの延長の口コミで、その他15人が来ます。やはりそういうお客さんが来るということは、非常に魅力的に映っているからこそ来られるということで、その辺も力を入れていきたい部分だと思います。それで、外国人が来られると、必然的に日本人もそういうことなら行こうかという相乗効果も出てきていますので、やはり江田島市が残っていくということは、今の定住促進もしながら、海の観光に力を入れていくということが、いわゆる可能性の部分も大変大きいと思います。</p> <p>私も後期高齢者のやっとな仲間入り、それを元気な間にずっと大きくして、観光は江田島市だ、海は江田島市だということで、「江田島いいところ宝島」と私はよく言いますが、本当に宝島だと思います。それに生かしたことを今からしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、次に、自治会連合会の委員さん。人口減少の改善に向けて、どのような事業があればよいと思われませんか。お聞かせください。</p>
委員	<p>自治会として、こういうような事業に取り組めば、人口減少に歯止めがかかるといったものは、自治会のそれぞれの、江田島市の中に31単位自治会がありまして、それぞれの自治会がそれぞれ独立して活動しておりますので、私も今から話をさせていただくことにつきまして、江田島市自治会としての意見というよりは、一自治会の人間として聞いていただきたいです。</p> <p>私は、海上自衛隊の近くにいます。その中で、幹部候補生学校と一般の学生がいますが、資料の中にも術校等については、高齢化率が0%です。当然ですが、高齢者というのは、海上自衛隊には全くいません。高等学校を卒業し、又は大学を卒業してここに入ってきて勉強して、日本各地の自衛隊施設へ転勤をするわけですが、その中で、海上自衛隊の生徒というか、結婚されておられる方が、江田島市に来られて勉強されて、またよそへ行って、退職したら江田島市に土地を求めて定住すると言われる方が、結構います。警察の方にも、いらっしゃいます。こういった方の出会いの場というのをつくらなければどうだろうか、と思います。これは、自衛官だけが対象ではなく、市内におられる独身の方、広島でもどこでもいいと思います。そういった出会いの場をつくるというのが、将来的にも帰ってくる可能性もそこにはあるのかと思います。</p> <p>それと、やはり地域が発展をするというのは、先ほどもありましたけど、企業を誘致するということになると、これは、必ず交通の便というのが絡んでくると思います。そのためには、先ほどの夢物語じゃないですけど、江田島市にはまだまだ導入していないという橋、専門家にいろいろ聞きますと、今の方法なら橋をつくるよりはトンネルを</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>掘った方が安くつくという話もあるとのこと。特に、先ほど私が言いましたルートについては、海上自衛隊の艦船が行き来をしますので、そこらに橋をつけるということになると、非常に難しい問題があると思いますが、この問題は、トンネルを掘ることで解消できると思います。江田島市民も当然ですが、近隣県や日本全国にこういった大きな夢を持った江田島市があるということ発信していただければ、将来的にプラスになるのではないかと考えています。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。 次に、情報発信に関する委員さん、お願いします。人口減少社会において、居住地として選択してもらうには、地域に関する情報発信の担う役割が大きいと考えております。県における情報発信の動向や取組の状況、また、江田島市では、どのような事業を展開すれば効果があると考えられていますか。御意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>江田島市は、先ほどからお話にあるように、すごくポテンシャルがあると思います。その伸びしろは相当あると思っていて、先ほどから話が出ている、大崎上島町とか周防大島町もそうですが、既に社会増に転じている島も、似たような立地条件、あるいはもっと悪いです。それらの島が何をしているかという、結局、島の中に魅力をつくって、ひいては、仕事をつくっている。おっしゃるように、インフラの利便性を上げていくこともすごく大事ですが、たぶん両輪があって、中の魅力をつくりながら利便性を上げていかないと、結果的に便利になった分だけ余計に人が流れ出ていくリスクも一方ではあるので、おそらくそこが両輪としてすごく大事なのだと思います。</p> <p>情報発信という視点では、いかにメディアが取りあげたくなるような、最近で言うと、SNSでみんなが「いいね！」を押したくなる、シェアしたくなるような島の中の魅力を、どれだけつくっていきけるかが、勝負だと思います。</p> <p>そのために県と市、私は両方の立場があると最初に御紹介しましたが、一緒にやっている事業がいくつかあります。今年度やっているものも三つありまして、一つは「ひろしま里山ウェーブ」という、今年でもう3年目になります。これも、県としては4年目ですけども、私が江田島市に行き来するようになってお願いして、参加してもらいました。3年目になると、実は今回も5つ、6つ市町が参加していますが、実は江田島市が一番人気です。都会の若い人たちが一定期間こちらに来て、一緒に何か新しいことを何ができるだろうかというのを話し合っ、実施していくプロジェクトなのですが、江田島に行きたいという人が一番多いです。多過ぎて調整したぐらいです。それぐらい外の人たちから見ると、魅力があります。その中で、実は株式会社ロボットという、『ALWAYS 三丁目の夕日』という映画をつくった映画制作会社があります。その人たちが実際に来てすごくよいと。この魅力を是非、我々の映像をつくる力で、全国に発信していくお手伝いをさせてほしいという声が出てきたりしています。</p> <p>二つ目にフウダの「サテライトオフィスおためしモニターツアー」。サテライトオフィスを持ちたい会社が、これも10数名ツアーに参加されて、見に来られています。やはりすごく立地もいいし、意外と都市部からの利便性もいいし、サテライトオフィスを持つにはすごくいいという中で、ここでも、実は、コニカミノルタ株式会社という日本全国のオフィスにコピー機を入れている会社が、そういう自分のところのお得意先がそこを利用して、しかも来るだけじゃなくて、地元の課題をその会社の強みを生かして解決していくようなサービスを新規事業で始めたいので、江田島市と一緒に立ち上げませんかという話があります。</p> <p>三つ目は「ひろしまサンドボックス」という、県が10個のプロジェクトに3年間で10億円の費用をかけ、新しいいろいろな社会実験をしていきます。首都圏の最先端のIT企業と県内のものづくり企業が組んでやっていくようなプロジェクトを今年から公募でやっていて、それも第2回目の公募が終わり、審査が終わっています。その中の一つが、東京大学とか、シャープ株式会社と江田島市の内能美漁協がそこに加わっていますが、すごく難しいカキの養殖の特に種付けとかをドローンとかITの技術を使って、どこで排卵し、どこに種付けに行けば最大効率で種付けができるのかということ、IT技術を使って業務を効率化していくようなプロジェクトが採択されて、これが3年間で1億円付いて、今、動き出しています。</p> <p>3年前までには、例えば、株式会社ロボットとかコニカミノルタ株式会社とか東京大学とかシャープ株式会社が江田島市と一緒にやりたいって言うてくるようなことは、ま</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>ずなかったことです。これは、一生懸命動いて、外を呼び込む動きをしたおかげで、こういう動きがはじめています。これは、チャンスですよ。これをどう実らせていくために、受け入れ先は一枚岩となって、必ずいい成果を生むぞという動きをすることが非常に大事だと思います。正に、さっき観光の方でおっしゃっていた「一步」です。商工会と観光協会と市の交流観光課と、今まではそれぞれで動いていたものを一枚岩にして、外から江田島市に遊びに来てくれた人たちが魅力的な一日の過ごし方プランをみんなで練り上げていくこと、これができたときには、実際、誰かが来て一日過ごしている様子を映像にして、発信していくことです。そこは、日本トップクラスのところは是非やらせてくださいと言ってくれているので、よいプランをつくりさえすれば、それがすぐよい映像で発信されていくことができ始めているということです。先ほどの東京大学のプロジェクトも、今は内能美漁協だけですけれど、島のうちの漁協を一つにまとめて、これでよい成果をつくって、江田島方式のカキの養殖の最先端のやり方が生まれて、これが全国に水平展開していくようなことになれば、メディアもすごく興味を持って記事にしてくれると思いますし、江田島産のカキの評判が上がっていく一つのよいきっかけにもなるかと思えます。</p> <p>今言った動きというのは、まだきっかけですけども、これの一步として動いている動きも実は一つありまして、皆さん御存知の「江田島てくてく計画」の中で、江田島市の耕作放棄地を直接預けるのは不安なところを解消するために、間に入って1回預かって、それをてくてくに預けるという協力をしています。そこに去年の今頃、中国の雲南省から、中国の雲南省は貧困地域ですが、その貧困対策にてくてくの技術を是非向こうに持ち込んで、それをよいものに仕上げていきたいという話がありました。何回か通っている中で、試作品ができて、実は先月、北京の日本大使館で天皇陛下の祝賀のレセプションがあり、そこでその試作品がお披露目となり、ものすごい大評判だったと聞いています。「江田島 スペース 北京」で検索してもらえれば、一般社団法人共同通信社が配信して、日本中の新聞で江田島の名前が入ったニュースが流れています。実は、それを見て、イオン株式会社の岡田会長が、自ら中国の全部のイオンでこれを是非取り扱わせてほしいという話をされています。反日の打ち壊しに遭っている中、中国の貧困対策のために、イオンもこれほどまでに汗をかいているということを言えるよいチャンスなので、是非扱わせてくれということです。入口の一番よいところに専門の販売員も置いて、映像ディスプレイも置くという話です。日本のイオンで置いてもらおうと思ったら大変なことです、入口の一等地に置きたいという話が来たりしています。</p> <p>だから、こういうことがこの島から生まれてきているということが、情報発信されるようになれば、江田島市はなかなか面白いことをしていると、あそこに行けば何か面白いことができそうだと、これに自分も参加したいと考える人たちが流れ込んでくるようになるかと思えます。これが、半歩先うまくいっているのが大崎上島町や周防大島町で、江田島市はそれより立地的にも有利で、いろいろなよいカードや世界遺産の宮島に沈む夕日が見える島は、日本中を探しても江田島市しかありません。そういった強みを最大限に生かして、とにかく島の中に魅力をつくっていけば、結果として、1%、2%の人口に対しての人口流入を取り戻していくということは、十分可能だと私も思っていて、私以上にやはりこうやって外から来た人が、これはすごいと、これは十分いけるというように口を揃えて言っていただけだということは、何よりの証拠なのだと思いますので、是非それぞれの持ち場で、そういうチャンスを島の中で一枚岩として取り組んでいくという動きにつなげていけたらいいと思っています。</p>
座長	<p>ありがとうございます。何か他に御意見がございます方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、次に、最後の議論をしなければいけないことがありまして、資料5を御覧ください。資料5に書かれている総合戦略の目標数値の変更について、御質問、御意見があればお願いいたします。特に、この数値に関しては、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、目標数値の変更につきましては、御了承を得られたということにさせていただきます。</p> <p>他に何か御意見がございますか。ないようでしたら、私から1個、提案をさせていただきます。数値を見ていたときに、年齢の世代ごとといろいろあったと思うのですが、特に今若い方、高校生とかじゃなくて、20歳から35歳ぐらいまでの方というのは、昼間</p>

【平成30年12月17日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第6回）要点録】

	<p>はどこにいらっしゃるかは分かりませんが、こういう場において、意見を賜るということがないのではないかと思います。先ほども御意見をいただきましたが、江田島の嫌なところというか、そういったところも結構あるのではないかと考えています。ワークショップ等、若い世代対象のミーティングを開いて、どうしていくべきかその解決をみんなで議論する場というのを、来年度、立ち上げられたらどうかと思います。単純な思い付きで申し訳ないですが。</p> <p>他に何か御意見はございますか。ないようでしたら、以上で協議を終了いたします。閉会に当たって、事務局から何かございませんでしょうか。</p>
事務局	<p>それでは、簡単に。本日は長い時間、どうもありがとうございました。いただいた御意見は、いろいろな部局にまたがっているので、そちらに伝えますし、当然、議事録という形で市長に伝えますので、その中からいただいた御意見をうまく生かせるように考えていきたいと思っています。</p> <p>いろいろいただいた御意見の中で、二つだけ。</p> <p>座長が先ほど言われたワークショップですが、確か総合戦略をつくった年かその次の年ぐらいに、1回したことがあります。そのときには、年齢限定ではなかったのですが、割と島の若い方が来ていただき、活発に議論いただいたというのはありました。そういったことを毎年したら同じことになるかなと思ったので、しばらくは空いていますが、そういうことは可能ですので、また来年度そういった意見を言うていただく場というのは、考えてみようと思います。</p> <p>それと、もう1個、明るい話として、大柿高校について、先月ぐらいに協議会があって、そこで今の志望状況、高校生の集まりそうな予想の話聞いてみましたが、市内が25、26人ぐらいで、市外が10人ぐらいとのことでした。校長先生の見込みではありますが、そういう話を言われていたので、校長先生の読みどおりいけば、30人を超えるぐらいの第一志望の子どもがいます。これが本当にみんな受けてくれて、合格してくれたら、80人を超えられるということで、私たちとしても少し勇気付けられているところがあります。これについては、最後までうまく受けていただけるように期待したいなというように思っています。</p> <p>すみません、最後に補足でございました。事務局からは、以上です。</p>
座長	<p>5 閉会</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日の協議事項が、全て終了いたしました。皆様、御協力ありがとうございました。先ほど、事務局からも説明がありましたが、この検証会議は、毎年、実施していくということですので、委員の皆様におかれましては、引き続き御協力のほど、よろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会させていただきます。お疲れ様でございました。</p> <p style="text-align: right;">（終了）</p>